HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	刊行によせて
Author(s)	生越, 明
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 3
Issue Date	1996-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35303
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_kankou.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

刊行によせて

技術部長　生越　明（農学部長）

北海道大学農学部技術部は「研究・技術報告」第３号を発行する。「北海道大学農学部技術職員組織内規」の施行により、平成３年４月農学部に技術部が誕生した。平成７年１月には「北海道大学農学部技術部運営委員会要項」、「北海道大学農学部技術部実行委員会申合せ」が制定され、着々とその充実が図られ、組織としての活動も定着して来た。平成７年１２月には、農学部技術部広報としての「技術部だより」第１号も発行され、技術部職員研修も第４回を多数の参加者を得て実施された。運営委員会、実行委員会を中心として着実な活動を行なっている。

いうまでもなく、大学は学生と教職員で成り立っている。技術系職員も教職員のなかに含まれ、大学の重要な一部をなしている。海外の大学においては、技術系職員を含め研究支援機構が充実しているところが多く、海外で研究して来た教官の多くから、これをうらやむ声が発せられている。種々の事情があるのであろうが、わが国の大学ではこの点で十分な体制とはなっていない。日本学術会議で平成７年１０月に村山総理大臣に手交した要望書のなかでも、研究支援者の充実に触れている。近年のように各分野の技術レベルが上がり、機器・装置も精密化・大型化して行くなかで、技術系職員の役割はますます重要になって来ている。種々の技術ははじめ特定分野のなかで開発されたものが、やがて様々な分野に広がり、共通の技術になって行く。電子顕微鏡、コンピュータ技術などいくらでも身近な例をあげることができる。そしてこのことによって学問分野間に共通の理解が生まれ、より一層の発展につながって行く。

農学部においては、大学院学生の増加が顕著である。若々しい頭脳を持った学生は新しい技術に対してもためらうことなく取組もうとする。教官に対する期待ばかりでなく、よりしっかりした技術をもつ技術系職員に対する期待が大きくなっている。技術部としても、研修会など種々の機会に技術系職員を出席させ、新しい知識・技術を修得させる努力をしなければならない。

このためには農学部教職員全体の理解と助力が必要になる。技術部としてもその存在と役割を理解してもらう努力が必要である。現在では十分な理解が得られているようには思われない。工学部などと比べてもその理解に差があるように思われる。とくに直接技術系職員に接していない教官へのアピールが必要のように思われる。

農学部は大学院改革を目指し、大きな変革を迎えようとしている。農学部全体の発展のために、技術部も新たな対応が必要になるであろう。技術部の農学部・農学に果たす役割に期待したい。

平成８年２月